

ットにおさめる動作—男性。

補助 「応援」と同じ要領の手まね。

螢 掌に下向けた右手の左にさした五指の指頭を集め合わせては開き、また五指を閉じ（指頭を集め合わせ）開き閉じしながら右の方へ上下さして移動さす。螢が光りを放ち飛ぶ様。

没落 「おちぶれる」と同じ手まね。

仏 仏の手印、即ち掌を上向け五指の指頭を右にさした左手を腹の上につけ、五指の指頭を上さし掌を前向けた右手を右肩の前にかさす。この両手の夫々親指と人差指で輪をつくるもよし。

殆ど 「凡て」と同じ手まね。

焰 「火」と同じ手まね。

骨折り 掌を下に向けて拳にした左手の腕（下膊部）の上を右手拳で叩たく。

ほぼ 「大方」と同じ手まね。

保養 「病氣」の手まねをして掌を内側にした左手を胸につけ、その手甲の上を掌を内側にした右手で愛撫する。

ほら吹く 掌を上に向けて、五指の指頭を左にさした左手の五指を彎曲して螺貝を持った姿態にして口許につけ、その前の位置にこれも掌を上に向けて五指の指頭を右にさした右手の五指を彎曲して並らべてから、貝螺旋形を表わすために、右手の掌をそのままぐりりと下に向ける。両頬をふくらませて口で吹く。

捕虜 降参—兵士

惚れる 掌を上に向けて指頭を前方にさした五指をその指頭が夫々の指の根もとにつくばかり曲げて、その手首のところで顎の下につけてから、下へ落す。顎がはずれること。

亡るぶ 衰えて落なくなる。

本 合掌した両手を本を開くようにする。

本気 (1)本気になる。両手掌に唾をつけ両手をすり合わせる。「さア、やるぞ」と云う身振。(2)本気で云う。ほんとうー心ー云う。

本家 本一家

凡人 考えー腕ー普通ー人々。

ほんとう 五指の指頭を上になしし掌を左側にした右手を額



の「真実」。

の上に直角に一度二度打つ。これは片手で押んだ手を口もとにもって来た身振。「拝む」心

マ

毎度 (1)「毎日」と同じ手まね。(2)「度

々」と同じ手まね。

毎日 人差指(上に)と親指(下に)を弧形にまるく開いた両手を前方で少しの間隔を置いて向い合わせ大きい円形をかたどり(太陽)それをそのまま上へ手前の方へ弧を描いて、下へまた前方へとこの運動を二三度繰返す。日が出て日が入りと繰返す毎日。「いつも」「常に」の手まねにもなる。

参る (1)行く。(2)行くー拝む。(3)降参。

任かず 「責任」の手まねをして、その手をそのまま前方へさし出す。責任を先方へ渡す。

負ける 五指の指頭を上になしして、内側にした掌で鼻頭を押える。負けて鼻がべしやんこになるの意。

孫 息子(中指) 女性(中指) 息子(中指) 娘(中指) 生れるー女性(中指) 息子(中指) 或は娘を表わした位置から更に下方へ生まれる男性(中指) 或は女性(薬指)を示す。生